

平成 17 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

1 特定研究

「事業所周辺における大気環境リスクの推計に関する研究」（継続課題）

[総合評価とコメント]

- この研究によって、環境リスクの高い地域の特定が合理的にできるようになるものと期待されます。このことは、期待される成果としても挙げられているとおり、政策面ではどの地域あるいはどの物質に対して優先的に取り組むべきかを検討するのに有用ですし、排出事業者に対しても事業所からの排出が周辺地域に対してどの程度の影響を与えているかを知るための有用な情報を提供してくれるものと考えます。
今後は、一般の住民に対して分かりやすい情報提供のあり方についても配慮頂きながら研究を進めていただきたいと思います。さらなる発展を期待しております。
- 着目する有害物質の種類が十分かつ妥当であるかについて、絶えず留意してください。
- 県民のニーズが高い重要な研究で、是非継続すべきである。ただし、対象としている範囲が極めて広いので、対象を絞り、具体的な成果として積み上げていく必要がある。暴露人口を建物ごとに算出する手法はよいと思うが、室内外環境の差がリスク算定上にどの程度の影響を及ぼすのかは、確認しておく必要がある。
昼間の人口と夜間人口が著しく異なる地域では、神奈川県民の割合も把握しておく必要があるかもしれない。逆に、一日の大半を県外で過ごす県民の暴露リスクは算定できない恐れもあり、HPなどでの公開時には工夫が必要と思える。
- なぜジクロロメタンとトルエンを選んだのか、さらに、他の物質に対しても、そのまま適用できる点などを、もう少しはっきり説明されたほうがよいと思います。
また、大気環境リスクの推計にあたっては、いくつかの仮定・条件が設定されていると思いますが、結果の発表の際には、これらの仮定・条件を明示することによって、この推計方法の限界を示すと同時に、この方法が正しく用いられるように努める必要があると思います。できれば、最終的なデータの信頼性、あるいは誤差についてのコメントを添付すると、なおはっきりすると思います。このような推計では、誤差がでるのは当然のことで、その誤差の程度を示すことで、かえってデータの信頼性が高まると思います。全般的には、非常に複雑な現象に対して、解析・推計を挑まれ、結果をまとめられている点が高く評価されます。
- 大気汚染物質による環境リスクに関わる評価は、住民の健康保全にとって重要なことは論をまたない。発生源からの排出実態の把握は行政対策の確立に必須であるが、一方では、多くの困難さが伴われる。事業所からのヒアリング、P R T Rデータの活用、さらに、環境濃度測定により把握する本研究における手法は、基本的に首肯されるものである。今後の精緻化が必要であり、期待される場所である。
一方、拡散シュミレーションを独自に行う姿勢は意義があるが、既存モデルの適用における新たな検討も必要とされよう。やや単純化した設定条件に不十分さを感じなくもない。

- 事業所のみが発生源とする物質のリスク評価は重要な課題と思います。濃度推計モデルの活用方法がポイントと思いますが、この種のモデルはなかなか「あわせ」づらいと思います。傾向が出れば第一歩のモデル開発としては十分ではないかと思います。

(数値的評価)

★評価者 6 名 (一部の項目は 5 名)

<評価の内容>	<評価項目>	<ランク>				
計画の立案と実施 法	○研究内容	5 (4 人)	4 (2 人)	3(0 人)	2(0 人)	1 (0 人)
	○計画の妥当性	5 (2 人)	4 (4 人)	3(0 人)	2(0 人)	1 (0 人)
研究の進捗状況	○進捗状況	5 (1 人)	4 (4 人)	3(0 人)	2(0 人)	1 (0 人)

※ランクは、5 点満点の評価で 5(優)~1(劣)